

洪水ハザードマップ

新潟市

新潟市洪水ひなん地図（＝洪水ハザードマップ）では、阿賀野川、信濃川、大河津分水路、新井郷川等、早出川、小阿賀野川・能代川、通船川等、粟ノ木川等、中ノ口川、西川、矢川等の11河川について、大雨によって増水し堤防が決壊した場合を想定した浸水想定区域の結果を表している（各河川の想定における確率年と想定降雨量は右表のとおりである）。新井郷川等、通船川等、粟ノ木川等、西川では内水による浸水についても想定している。
また、本資料では、河川にかかわらず想定浸水深が最大となるものを示す。

国管理	対象河川	確率年	想定降雨量
国管理	阿賀野川・早出川	150年	2日で223mm
	信濃川	150年	2日で270mm
	大河津分水	150年	2日で171mm
県管理	新井郷川・福島潟等	50年	2日で331.4mm
	通船川・粟ノ木川	100年	1日で198mm
	早出川	100年	1日で350mm
	小阿賀野川・能代川	100年	1日で324mm
	中ノ口川	150年	2日で270mm
	粟ノ木川・鳥屋野潟	100年	2日で285mm
	西川	100年	1日で198mm
	矢川	30年	1日で147mm

凡例

浸水想定深

- 0.5m未満
- 0.5～1.0m
- 1.0～2.0m
- 2.0～5.0m
- 5.0m以上

市界と市街化区域

- 市界
- 市街化区域

避難施設

- 屋内避難所
- 屋外避難場所
- 広域避難場所

主な公共施設

- 県庁・市区役所
- 警察署・消防署
- 学校
- 病院
- 要援護者施設

災害が発生し、または発生のおそれがある場合に、一時的に避難する場所（一時避難場所）として市が指定した場所、また災害により住居を失った方を保護するために市が指定した施設（収容避難所）

災害が発生し、または発生のおそれがある場合に、一時的に避難する場所（一時避難場所）として市が指定した場所

地震発生後、火災の延焼拡大等により一時避難場所が危険な状況になった場合の避難場所として市が指定する場所

【出典】
 浸水想定深：「新潟市洪水ひなん図」（新潟市、平成17～18年）
 市街化区域：「新潟市都市計画基礎調査」（新潟市、平成19年）
 避難施設：「新潟市地理情報システム」（新潟市、平成19年）
 主な公共施設：「国土数値情報公共施設データ」（国土交通省、平成18年）
 （要援護者施設：「福祉施設」のうち、高齢者・障害者関係施設）

